不登校児ら通う公設民営を視察

川崎で文科相

下村博文・文部科学相が27日、川崎市高津区の「フリースペースえん」を視察した。同施設は主に不登校の児童・生徒が通う全国的にも珍しい公設民営のフリースペース。下村文科相は、南米の音楽を演奏したり、英語の学習に取り組んだりする子供たちと触れ合い「既存の教育では収めきれない子供たちが育っていく可能性がある」と感心していた。

施設は小学生から40代までの105人が通い、発達障害や経済的困窮を抱える人もいる。決められたカリキュラムはなく、自分で過ごし方を決めるのが特徴。下村文科相との意見交換で、施設を運営するNPO法人「フリースペースたまりば」の西野博之理事長は「障害がある子供たちをスキルアップさせる支援より、周りにいる大人が子供と一緒に楽しく過ごすスキルを高めていく必要がある」と指摘した。

市教育委員会によると、2013年度の市内の不登校児童・生徒は小学生が238人（0・34％）、中学生が1048人（3・65％）。【鈴木敬子】

子供たちの演奏を聴き、拍手をする下村博文文科相（後列左から2番目）＝川崎市高津区で

MAINICHI 毎日新聞

10月28日（火）

2014年（平成26年）

朝日新聞

2014年（平成26年）

10月28日

火曜日

■フリースペース国視察

川崎市高津区で不登校の子らが集まる「フリースペースえん」を27日、下村博文文科相が視察した。えんは川崎市が設置して民間に運営を委託した、全国でも珍しい公設民営のフリースペース。学校復帰を第一の目的としない点が特徴で、下村氏は子どもが楽器を演奏したり勉強したりする様子を視察した。

意見交換で下村氏は、不登校児のフリースクールなどへの支援を検討していると述べ、「不登校児を学校に戻すのではなく、力を発揮できるようにしなければならない」と話した。施設を運営するNPO法人の西野博之理事長は「教員がフリースクールで研修を受けるなど、不登校の子どもへの理解を深めることも必要だ」と提案した。

2014年（平成26年）10月28日（火曜日）
©中日新聞東京本社2014
（日刊）

東京新聞

高津の不登校児童・生徒「フリースペース」

文科相が視察

下村博文文部科学大臣が27日、川崎市高津区下作延の「市子ども夢パーク」内にある「フリースペースえん」を視察した＝写真㊨。

視察は、フリースペースなどで学ぶ子どもたちへの支援策検討のため。室内で歌を歌ったり勉強したりする様子や、自由にたき火やどろんこ遊びができる施設を見て回り、「教育をより柔軟で、多様な発想に持っていかねばとあらためて思った。未来の学校の在り方のモデルの一つがここにある」と評価した。

「自分で勉強した方がいい？」「ここはどうして好き？」などと声を掛けた文科相。子どもから「ここはいろいろ強制されないから一番いいけれど、遠いから毎日来られない。家の近くにもこういう場所がほしい」と〝陳情〟される場面もあった。

「えん」は、主に不登校児童や生徒が通う公設民営の施設。2000年に全国に先駆けて市議会が可決した「子どもの権利条例」の実践の場として、全国的に活動が注目されている。（平木友見子）